

出張先：18<sup>th</sup> International *C. elegans* Meeting

アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA)

このたび若手研究者海外派遣プログラムの助成を頂き、アメリカ・カリフォルニア州の UCLA において開催された 18<sup>th</sup> International *C. elegans* Meeting に参加させていただいた。この学会は *C. elegans* に関する最大の国際学会で、開催期間は五日間、参加者は二千人にも迫るものである。私は *C. elegans* を対象とした新しい optogenetics の系を立ち上げることを目標としており、今回の学会ではこれまでの結果を発表しフィードバックを得ること、またこの分野における新たな知見を得ることを主な目的として参加した。

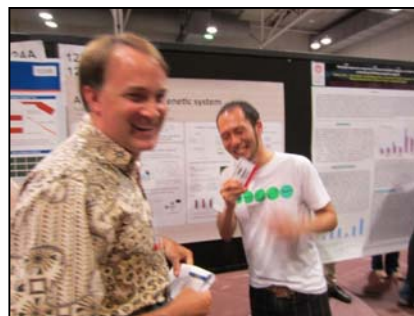
今回の口頭発表やワークショップで得られた各改変チャンネルロドプシンの特性や光学セットアップについて、また実際の *C. elegans* に対する応用例についての情報は非常に有意義なものだった。しかし私にとって何より印象深かったのはポスターセッションに参加したことだ。私のポスターを見に来られた方々から得られた質問やアドバイスは多岐にわたり、またそれぞれの意見は非常に貴重また本質的なものだった。また、興味を持った他のポスターへと質問

に伺ってもやはり丁寧な回答を頂けた。私の拙い英語にも皆様丁寧に耳を傾けていただけただけだと嬉しく思った。時にはご自身のなされた工夫について非常に具体的な、熱のこもったお話をしていただけるともあり、本当に充実した時間だったと感じている。ただ、やはり言葉のために議論がなかなか先に進まないシーンなどもあり、また口頭発表においても議論を追いきれないことがしばしばあった。このことから、今後彼らと渡り合っただけのためにも英語能力の向上が絶対に必要だと痛感した次第である。

様々な国内外の研究者と長い時間を共にすることで、彼らの研究に対する真摯な姿勢やそのバイタリティを目の当たりにすることができた。これは今後の研究生活に向け、大変意義のある経験となった。今回の若手研究者海外派遣プログラムからのご支援に際し、新学術領域『神経系の動作原理を明らかにするためのシステム分子行動学』の研究代表者である飯野雄一先生、ならびに領域事務の石澤和子様には大変お世話になった。この場を借りて、心からの感謝を申し上げたいと思う。



UCLA Royce Hall



発表会場にて